

【高等学校 ～家庭基礎・家庭総合2-①～】

生活設計と資産形成 (スライド構成例)

<講師のみなさまへ>

◆本資料は、「J-FLEC『標準講義資料』による授業実践のための学習指導案」をもとに作成したスライド構成例です(全3回の連続講義の実施を想定しています)。

◆実際の講義資料を作成される際は、「J-FLECのご紹介」スライドを必ず追加し、ご説明を行ってください(連続講義を実施される場合、全体を通じて1回ご説明ください)。



目次

2

1

【はじめに】
金融リテラシー
ってなに？

2

【使う】
生活設計
(ライフプランニング)

3

【使う】
家計管理と
キャッシュレス

4

【貯める・増やす】
資産形成の基本
(長期・積立・分散)

5

【備える】
社会保険と
民間保険

6

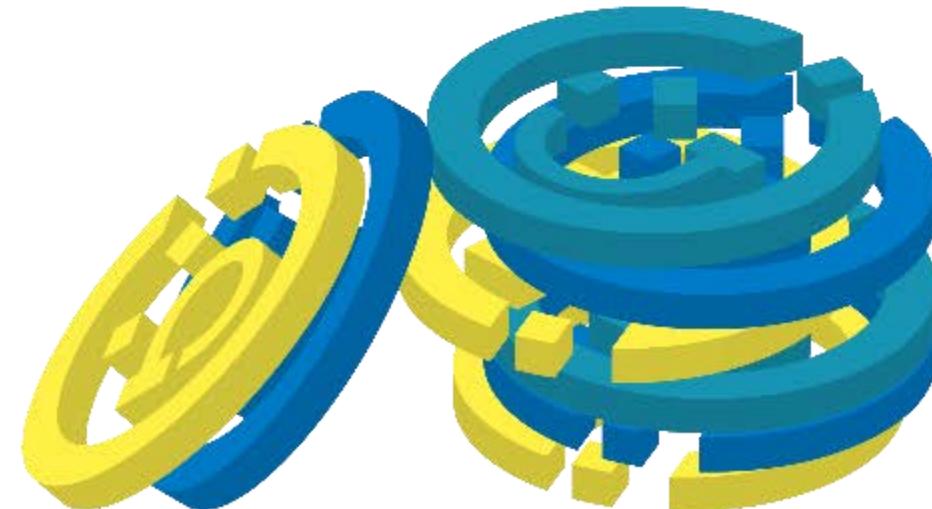
【借りる】
ローン・クレジット、
奨学金

7

【注意】
金融トラブル

1 【はじめに】

金融リテラシーってなに？



○ 当てはまるものがありますか？



一人暮らし
がしたい



大きな家
に住みたい



海外留学
がしたい



起業して
社長になりたい



やりたい仕事
がある



あなたの夢は何ですか？

- 金融リテラシーとは、経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な『お金に関する知識や判断力』のことです。
- 金融リテラシーを育むことは安心した生活に繋がります。

金融リテラシーが高い人の特徴

- 家計管理がしっかりとっている。
- 計画を立ててお金を準備しているので、やりたいことを実現しやすい。
- 緊急時の備えがあるので、危機(自身のケガや病気、不景気による収入減など)に強い。
- 詐欺や多重債務などの金融トラブルにあうことが少ない。
- 経済的に自立し、より良い暮らしを送ることができる。



○ 18歳(成年)になると、未成年のときと何が変わるでしょうか。

18歳になつたらできること

保護者の同意がなくても契約可能

- 携帯電話を契約する
- 一人暮らしの部屋を借りる
- クレジットカードをつくる
- ローンを組む



など

以下の行為は20歳から！

- 飲酒や喫煙
- 競馬、競輪などの投票券を買う



重要!

18歳(成年)からは、未成年を理由とする契約の取消しはできない(未成年者取消権は使えない)。

悪質商法や詐欺のような契約には注意。

正しい金融リテラシーを身につけることが重要です！

- 『契約』とは、『法律上の責任がともなう約束』のことです。
- 契約は、自分と相手が合意すれば成立します。

(例) 売買契約

- 皆さんにお店で商品を買ったり、お店が商品を売ったりするときの約束を、売買契約といいます。
- 契約が成立すると、買う人と売る人はお互いにお金を支払ったり、商品を渡したりしないといけません。

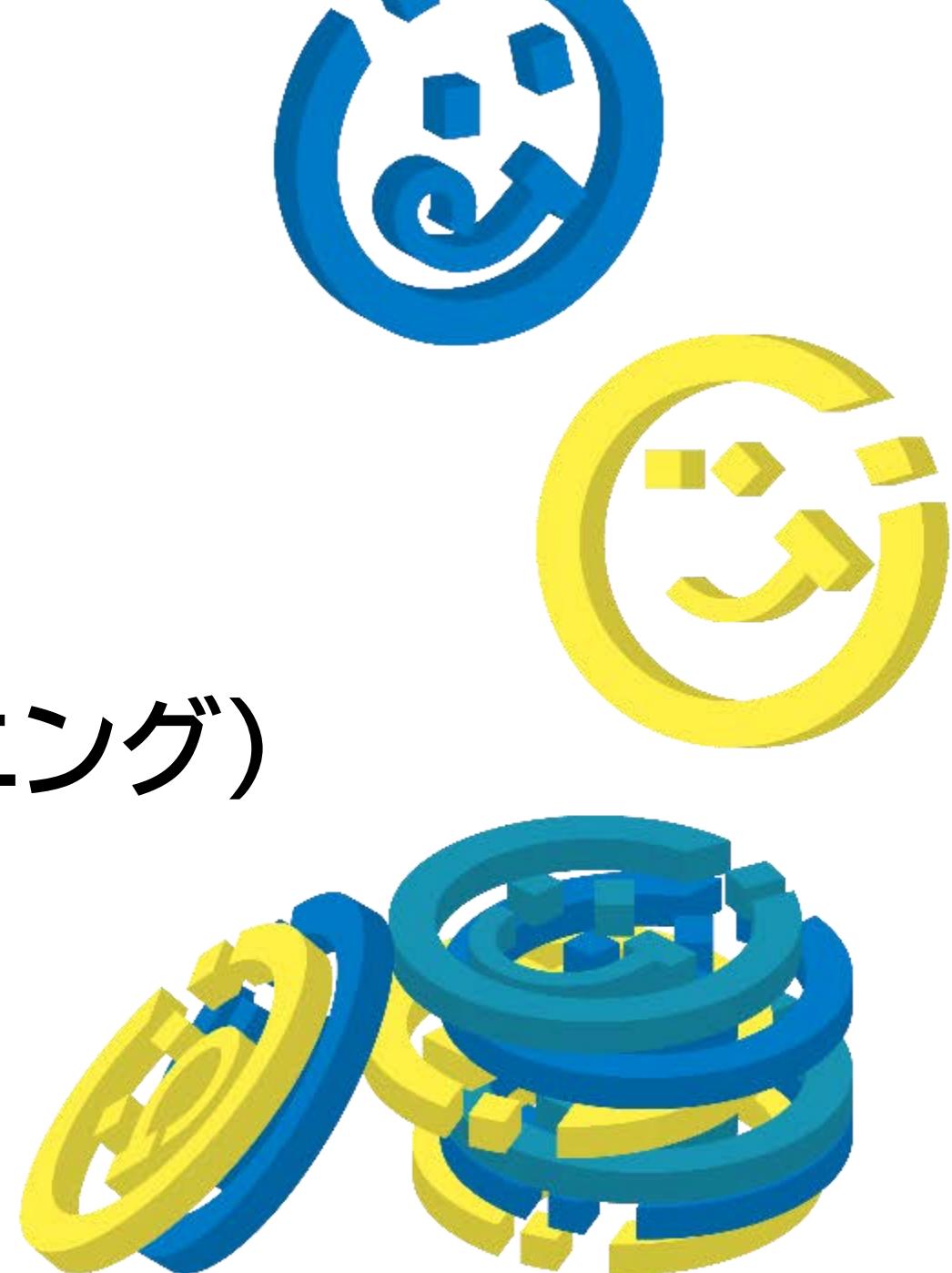


売買契約が成立！

『一方的にこの約束をやめることはできない』ので、買い物をするときにはよく考えることが重要です！

2 【使う】

生活設計 (ライフプランニング)



- 「将来どんな人生を送りたいか」についての構想を描くことを『生活設計(ライフプランニング)』といいます。

どんな仕事をしたい？

独身？ 結婚？

子どもは？

何歳まで働く？

50代
60代
70代
80代
90代
100代

30代
40代
50代
60代
70代
80代
90代
100代

いま

実現したいこと、ほしいものは？

どこに住む？ どんな暮らしをしたい？

○『職業や働き方、稼ぎ方は多種多様』です。

雇用される

- 会社員
(正社員、派遣社員など)
- 公務員
- アルバイト、パート など

それ以外

- 家業などを継ぐ
 - 起業する
 - フリーランス^(※) など
- (※)自身の経験や知識、スキルを活用し、
案件ごとに収入を得ている人
デザイナー、YouTuber、プログラマーに多い



年額(万円)

700

600

500

400

300

200

100

0

■正社員 □非正社員

年収に大きな差
があるんだなあ。

平均

~19

20~24

25~29

30~34

35~39

40~44

45~49

50~54

55~59

60~64

65~69

70~

(歳)

推定年収=「きまって支給する現金給与額」×12ヶ月+「年間賞与その他特別給与額」として試算
(出所)厚生労働省「令和6年賃金構造基本統計調査」

- ライフイベントによって大きな支出を伴うことがあります。
- 将来のライフイベントにかかる『必要金額をイメージ』しましょう。
- また、『想定外の支出もあり得ることをイメージ』しましょう。

ライフイベントに必要な金額(費用)の例



結婚

挙式・披露宴
新婚旅行等
約300万円
～500万円

自動車

国産大衆車
約100万円
～400万円
※数年程度で
乗り換えあり



教育費

幼稚園～
大学生まで
約800万円
～2,500万円
※公立か私立か
で差が大きい

自宅購入

新築戸建て
約3,500万円
～5,000万円



老後の 生活費

個人差が
非常に大きい
月額平均
約26万円

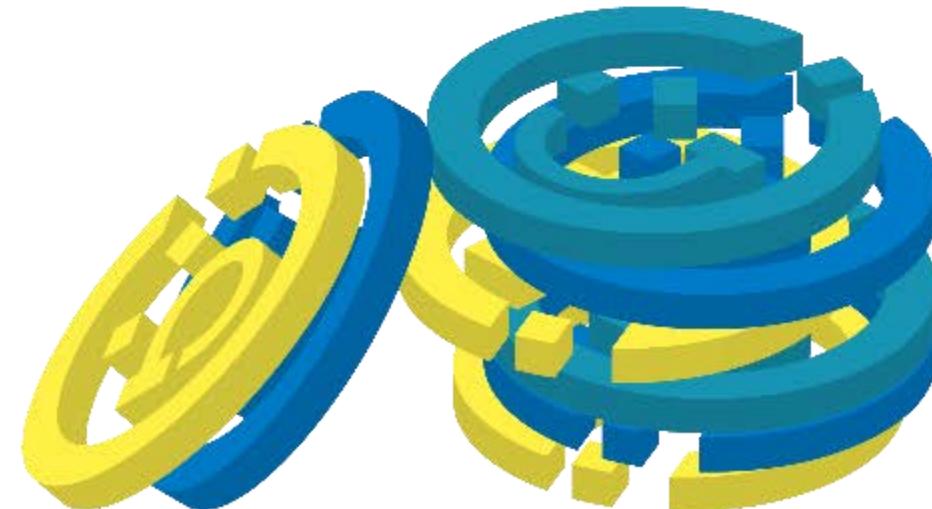
望まない 想定外の 緊急支出

ケガや病気、
身内の不幸、
被害者への
賠償など



3 【貯める・増やす】

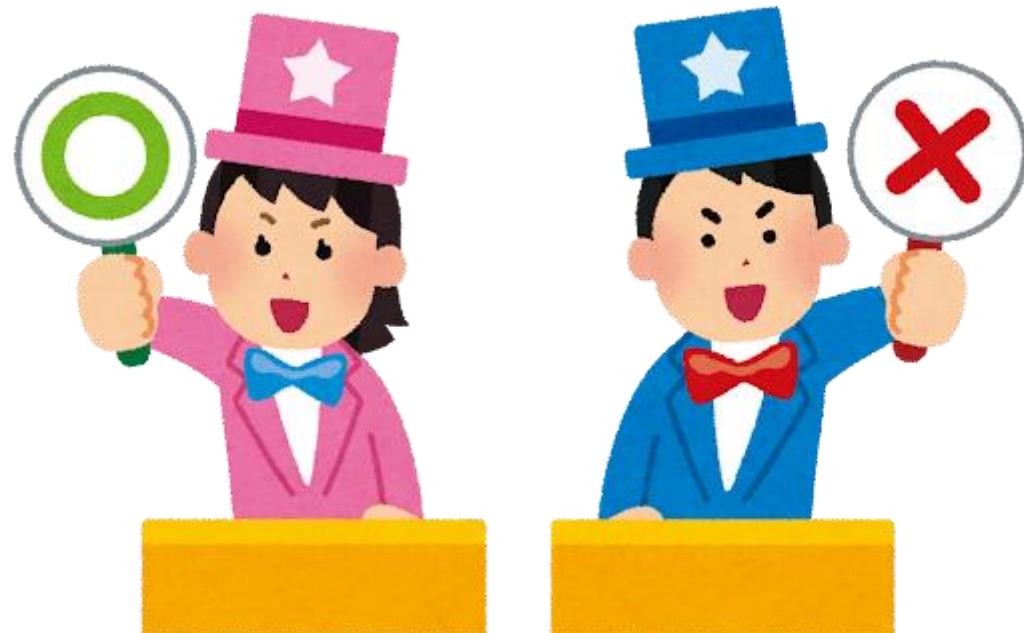
資産形成の基本
(長期・積立・分散)



クイズ



元本(元手となるお金)が確実に保証されて、大きい利益が期待でき、必要な時にすぐ換金できる金融商品が存在する。○か×か。



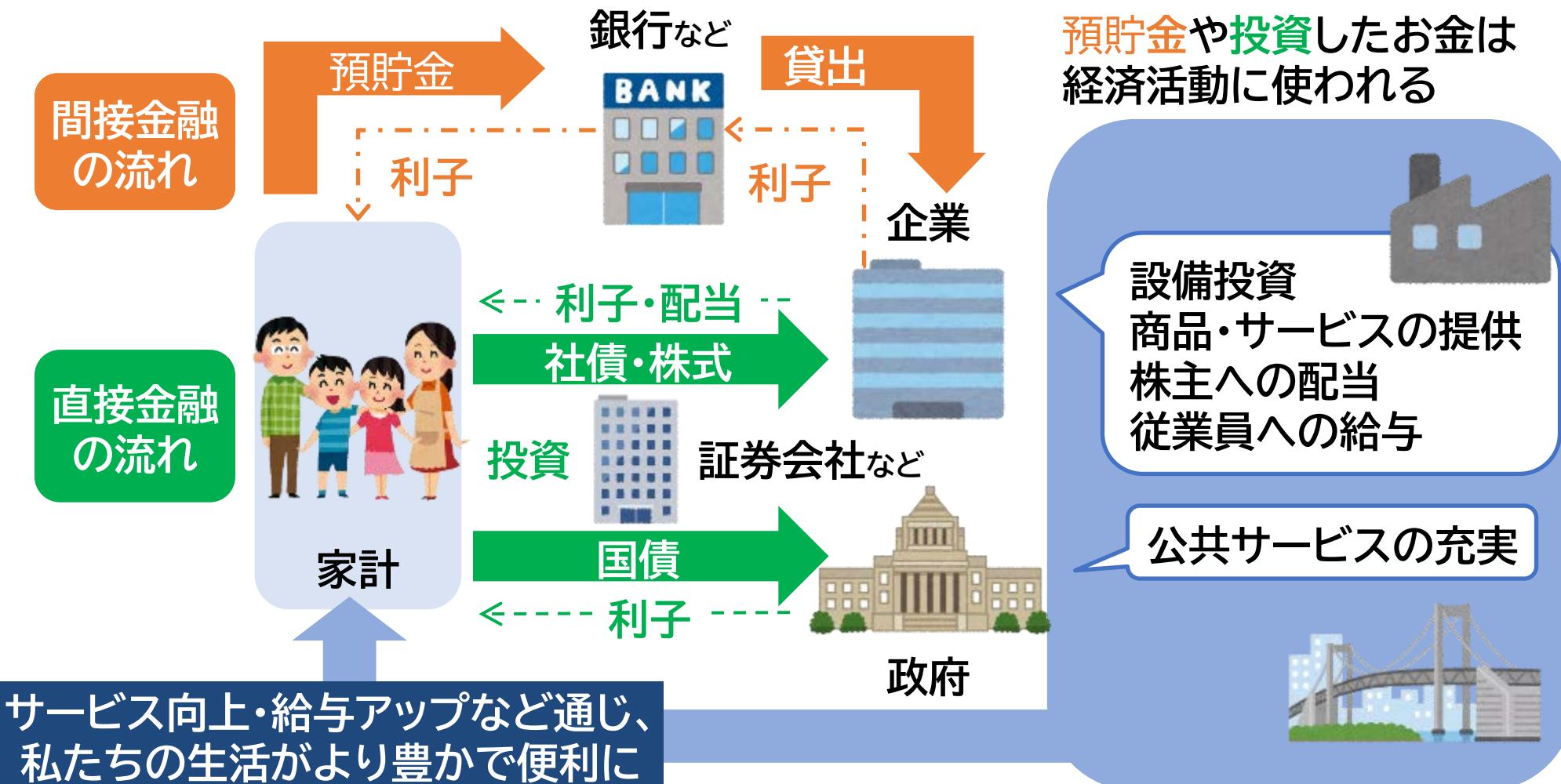
答え

X

元本が確実で、大きい利益が期待でき、いつでも換金できるような金融商品は存在しません。この後詳しく学んでいきましょう。もしそういう商品を紹介してくる人がいた場合、それは詐欺です。



- 資産形成(預貯金・投資)は、『経済活動を支える』ことで、消費(商品の購入)と相まって『経済を循環』させています。



- 消費や投資・寄付等を通じて、『社会課題の解決やSDGsに貢献する』ことができます。

SDGsとは

「持続可能な世界を実現する」ことを目指して、国連サミットで採択された国際目標。貧困や飢餓、保健、教育、ジェンダー、環境、生産、雇用など、幅広く17のゴール・169のターゲットから構成される。



商品の購入

投資・寄付

私たち



環境
保全

貧困
対策

クリーン
エネル
ギー

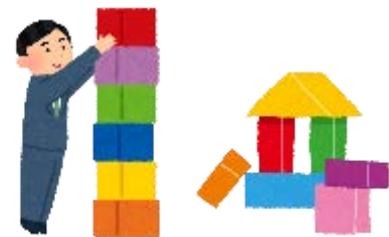


SDGsに取り組む企業

⇒ 消費(商品の購入)や投資(債券・株式などの購入)、寄付(クラウドファンディング等による被災地などへの寄付)等による資金提供を通じて、社会をより良くすることに貢献できます。

- 金融商品による資産形成の方法としては、「預貯金」と「投資」があり、『目的に応じた金融商品を選択』することが重要です。

預貯金



- ◆ 確実性重視(元本保証あり)
- ◆ 運用成果(結果)は商品選択時に決まっている※
- ◆ 原則、手数料はかかるない

投資



- ◆ 増やすこと重視(元本保証なし)
- ◆ 運用成果(結果)は商品選択時に決まっていない※
- ◆ 株式・投資信託の購入などには手数料がかかることがある(手数料は金融機関によって異なる)

主な金融商品

普通預貯金

定期預貯金

積立定期預貯金

株式

投資信託

債券(国債・社債など)

※変動金利の定期預金、国債・社債の償還持ち切り等、例外もあります。

- 投資は「お金が増えるか、損をするか分からぬ」という点で、ギャンブルと比較されることがあります、
『投資はギャンブルではありません』。
- 投資とギャンブルは、本質的に**『目的や仕組みが異なります』。**

ギャンブルとは

- ・ 娯楽を目的として偶然の結果(勝敗)に金銭を賭ける行為
- ・ 勝者と敗者がいることが前提で、賭金から主催者の運営料を差し引いた金額を参加者で取り合う仕組み



投資とは

- ・ 投資先の会社や国の成長を期待して資金を投じる行為
- ・ 投資先の成長などによって、利益を得ることを目指す仕組み



- 金融商品は3つの観点(安全性・収益性・流動性)で整理できますが、『3つとも○の金融商品はありません。』

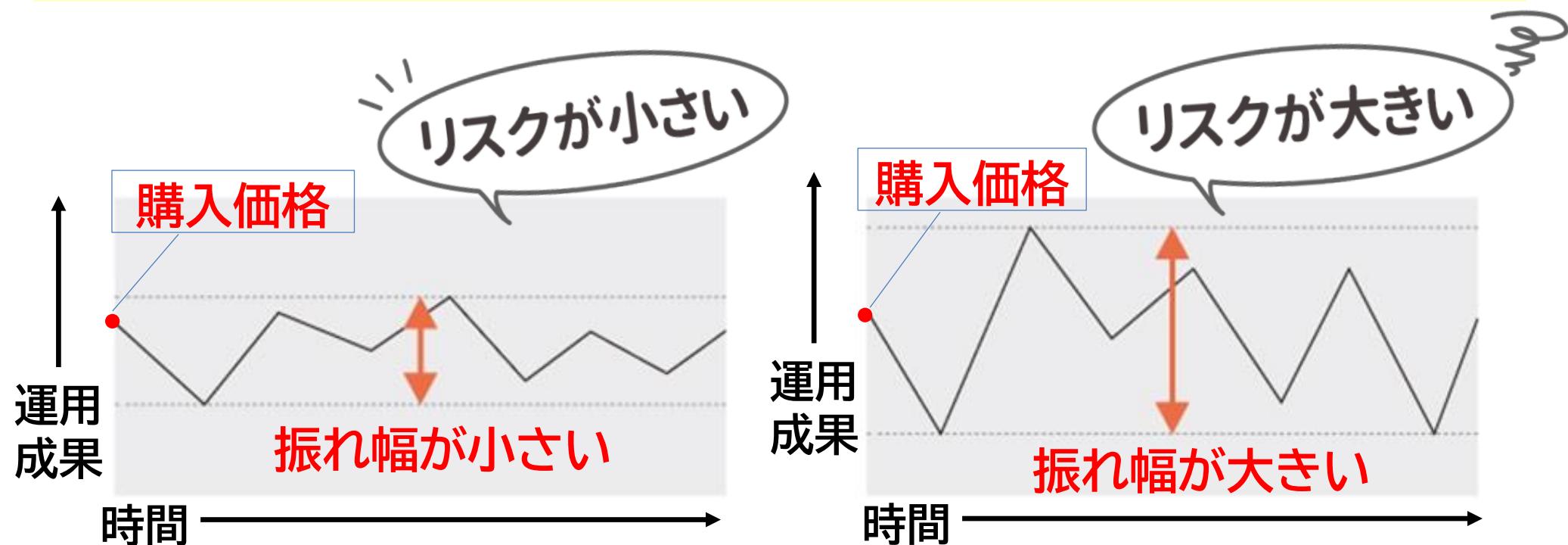
	安全性	収益性	流動性
	元本や利子の支払いが確実か	大きい収益が期待できるか	必要なときにすぐに換金できるか
預貯金	○	△	○
株式	△	○	○
債券	○	○	△
投資信託	△～○	○～○	○

次のような場面において、金融商品の特徴のうち、どの観点が最も重要になるだろう？

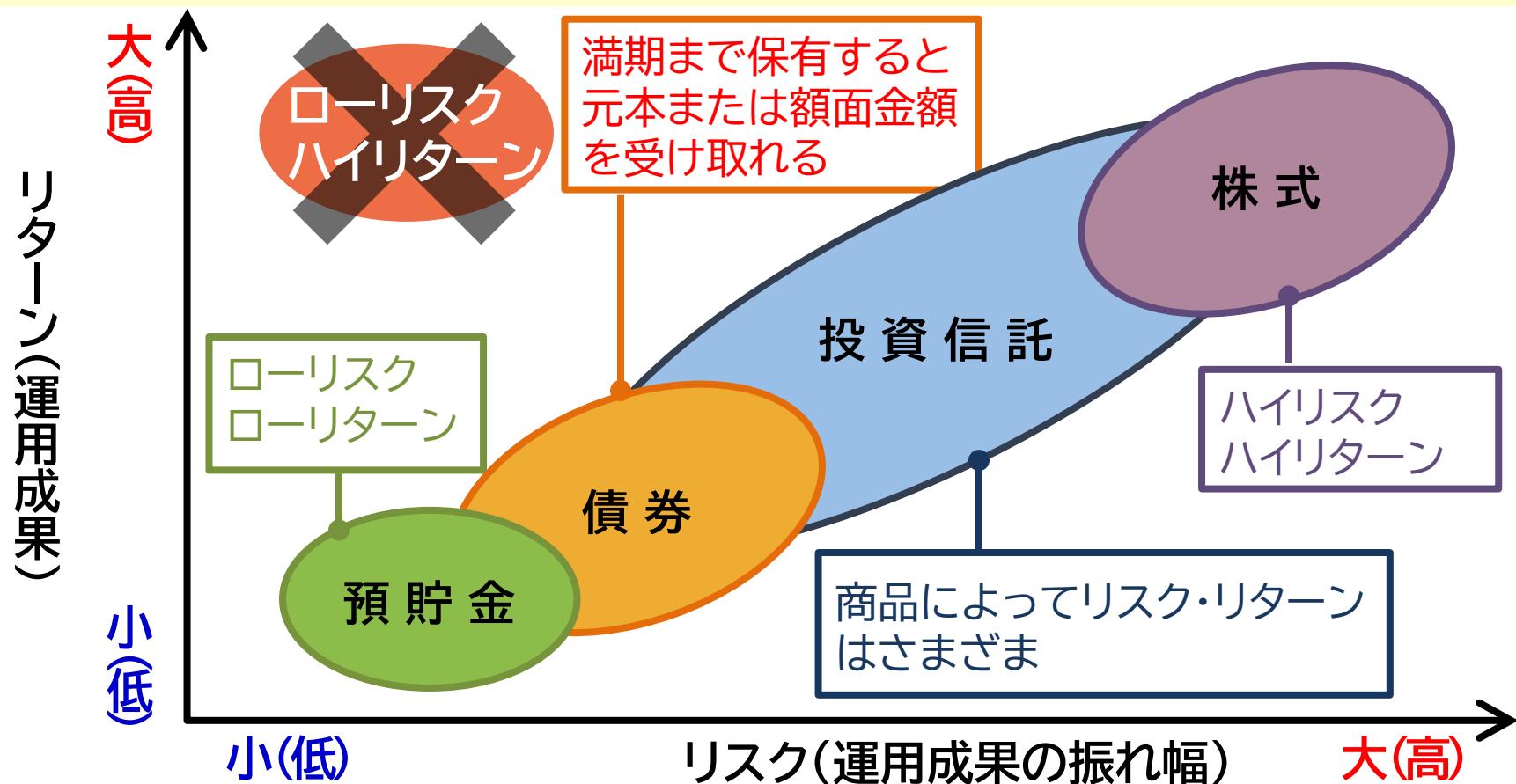
(1) 卒業後、専門学校に進学したいと考えている。
二年後に入学金・授業料などを納める。
そのために、今ここにあるお金を、減らすことなく確保しておきたい。
⇒()性

(2) 家族が増えてダイニングテーブルが少しこそと感じる。
一回り大きい気に入ったものが見つかれば、すぐに購入したい。
今ここにあるお金を、いつでも使えるように確保しておきたい。
⇒()性

- 資産運用におけるリスクとは『運用成果の振れ幅』のことを指します。「リスクが大きい」とは、「とても危険」という意味ではなく、「大きく儲かるかもしれないし、大きく損をするかもしれない」(運用成果の振れ幅・不確実性が大きい)という意味です。
- 『保険で備えるリスク(危険)』とは意味が異なります。



- 原則、リスク(運用成果の振れ幅)とリターン(運用成果)は比例関係なので、『ローリスク・ハイリターンの金融商品はありません』。



※一般的なイメージ図であり、すべての金融商品があてはまるものではありません。

- 投資は、リターン(運用成果)を期待して行いますが、以下の『リスク(運用成果の振れ幅)もあることを理解』して、無理のない範囲(当面使う予定のないお金)で行いましょう。

投資の主なリスク

リスク

運用成果
の振れ幅

つまり

様々な要因により
資産価値が増減
する可能性・不確
実性のこと

価格変動 リスク

信用 リスク

為替変動 リスク

カントリー リスク

要
因

株式や債券などの価格変動
(上昇・下落ともに)



投資先企業の財務状況や
経営状況(不祥事・倒産など)



外貨建て取引の換金時に
生ずる為替レート変動



国・地域の政治・経済環境
(天災や戦争など)



資産運用におけるリスクについてまとめてみよう

(1) 資産運用で「リスクが大きい」とは、どういう意味だろう？

(2) 次の特徴を持つ金融商品を1つ挙げてみよう。

①ローリスク ローリターン ⇒ ()

②ハイリスク ハイリターン ⇒ ()

投資の主なリスクを4つ挙げよう。